
彼氏と彼女

クー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼氏と彼女

【Nコード】

N6735A

【作者名】

クー

【あらすじ】

ちせが最終兵器になるという事をもしもシュウジがしていたら。

彼氏と彼女（ちせとシュウジ）

展望台にちせとシュウジはいた。

ちせ「シュウちゃん」

僕達はこちらから始めて行こうと思った

シュウジ「オレ達まだ彼氏、彼女だよな」

ちせは泣きながら驚いた。

ちせ「えっ！？」

シュウジ「あのさ順番はバラバラだけど今から好きになっていかな
え？」

ちせは涙を流しながら笑顔で頷いた。

ちせ「うん。じゃあ・・・」

カバンから、ちせが交換日記をだすと、

シュウジ「うつつ」

シュウジはひるんだ

ちせ「やっぱりだめ？」

シュウジ「わかったべやるよ」

ちせはまた嬉しそうに笑った

ちせ「じゃあ、私はシュウちゃんに何をすればいい？」

シュウジ「キス」

シュウジは顔が赤くなっていた。

ちせ「わかったする」

ちせは頷いた、そしてシュウジとちせは初めてキスをした。

展望台から降りるともう辺りは真っ暗になっていた。

ちせ「ありがとう」

シュウジ「途中でこけたりするなよ」

ちせ「うん」

ちせとシュウジはわかれた

ちせは機嫌がすごくよさそうに鼻歌を歌いながら帰っていた。

後ろに誰かがいる事を気づきもしなかった。

その頃シュウジは・・

シュウジ「あつ、ちせに交換日記を貰うのを忘れた。」

シュウジはちせの家に向かって走った。

ちせ「あの、誰なんかな？」

ちせは自衛隊の人達に囲まれていた。

???「あなたがちせさんですか？」

ちせ「はい、そうですか」

カワハラ「私はカワハラといいます。一緒についてきてくれませんか？」

シュウジ「ちせ、誰なんだお前らは？ちせになにをする気だ？」

ちせ「シュウちゃん」

カワハラ「ちせさんにはこの国を助けてもらうんです。」

シュウジ「どういう事なんだ？」

カワハラは汗をふきながらおそろおそろ話した

カワハラ「ちせさんには軍の基地にいつでもらい兵器になって戦ってもらいます」

シュウジとちせは呆然とした

カワハラ「この国を守るために仕方ないんです。誰も悪くないんです。」

自衛隊の人達がシュウジの方に銃口を向けた

シュウジ「えっ!？」

ちせ「やめて下さい。私はあなた達と一緒にいきますから」

自衛隊は銃口を向けたままであった。

シュウジ「ちせなにを言ってんだこいつらについて行くと、どうなるかわかんないぞ!」

ちせ「大丈夫、シュウちゃんすぐに戻って来るから」

シュウジ「ちせ!？」

ちせ「あなた達についていきます。」

カワハラ「はい、わかりました。」

シュウジは考えていたがしかし考えがまとまる前にシュウジは叫んだ

シュウジ「ちせ行くな・・・僕はちせに人を殺してほしくないんだ、だから行くなちせ!!」

ちせ「シュウちゃん・・・・・・・・」

シュウジ「自分の彼女が人を殺す所なんてたえられるわけがねえべや」

シュウジ「だから一緒にいよう、ちせ・・・」

ちせは泣いた、とにかく泣いた、しばらくするとちせは涙をふいた

ちせ「うん、もうどこにも行かないしょや」

シュウジとちせは自衛隊の人達など関係なく泣きながら、抱き合った。

カワハラ「仕方ないですね。」

シュウジとちせは自衛隊の方を見た

カワハラ「みなさん、戻りましょう、銃をおろして下さい。」

すると自衛隊の1人が話をしはじめた。

自衛隊「しかしそれでは」

カワハラ「いいんです仕方ないんですから」

自衛隊の人達はちせとシュウジの方に向けていた銃口をおろした

カワハラ「では、もう2度と会う事はないでしょう」

カワハラと自衛隊の人達はどこかへ言った。

ちせ「シュウちゃんありがとう。」

シュウジ「あたりまえだべ、オレはちせの彼氏でちせはオレの彼女
なんだからだ」

ちせ「うん、本当にありがとう。」

何年かたった。戦争は終わりこの国はボロボロになっていた、僕らの住んでいる北海道もかなりの被害を受けた。

しかし、僕らは生きていた。僕はちせと一緒に結婚をして暮らしていた

彼氏と彼女（アケミとアツシ）

ある時だった。アツシがアケミに呼びだされていた。

アケミ「久しぶりだね」

アツシ「そうだな5年ぐらいかな？」

アケミ「アツシあんたに見てもらいたいものがあるんだ」

アツシ「なんだ？」

いきなり、目の前が光った。おそろおそろ目を開けて見るとそこには・・・

アケミ「アツシ私ねこんな体になっちゃた・・・」

よくみるとアケミの背中には羽がはえていた

アツシ「えっ？ええええええ」

アケミ「さあ／＼さっさつとこの体を治しにいくわよ！-」

アツシ「はい？」

アケミ「一緒についてきて」

アツシはまだ驚きを隠せなかった

アケミ「早くぼーとしてないで」

アケミはアツシを抱いていつでも飛べる姿勢をとった

アツシ「あのさ、アケミ？」

その疑問を無視してアケミは空を飛んだ

アツシ「うわあああ」

アケミ「この体が元に戻ったら、早速、子供をたくさん産むわよ」

アツシ「もうそんな所まで・・・」

アケミ「ちせやシュウジには負けてられないわよ」

アツシはアケミの顔を見たらものすごく笑顔だった。その顔を見てアツシは思った

アツシ「まあ、いいか・・・」

アケミ「子供を産む前に結婚よ結婚」

アツシ「わかったわかった」

そしてアケミは元の体に戻り、アツシと結婚して、とても幸せに暮らしている

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6735a/>

彼氏と彼女

2010年10月9日15時14分発行